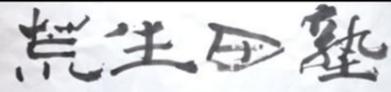


愛する人を失ったとき、あなたはどうしますか？
悲しみを乗り越えて「共に生きる」を考えるために



第四回 荒生田塾講演会

5月16日(土) 午後3時より 一条真也氏講演会

「グリーンケアの時代

―別れを生きるとは―

※講演の後、奥田知志牧師(当教会牧師)との対談

5月17日(日) 午前10時半より 特別伝道集会

講師：奥田知志牧師(当教会牧師)

※いずれも入場無料ですが、カンパ、献金を受け付けます。

※席に限りがあるので、お早めにお越しください。

※駐車場はありません。公共の交通機関をご利用ください。



いちじょう しんや
一条 真也

1963年、福岡県生まれ。本名、佐久間庸和。冠婚葬祭業(株)サンレー代表取締役社長。『愛する人を亡くした人へ～悲しみを癒す15通の手紙』、『無縁社会から有縁社会へ』(奥田知志他との共著)、『のこされたあなたへ 3.11 その悲しみを乗り越えるために』等、著書多数。



姜尚中さんの荒生田塾講演会(2/28、3/1開催)レポート

荒生田塾は、多くの方がこれまで信じてきた価値観・生き方が分からなくなっていくほどの時代の変化に晒されている今、「人は何のために生きるのか」を共に語り、問い直すための私塾です。

去る2月28日、3月1日の二日連続で、TBS「ニュース23」等、社会派TV番組のコメンテーターとしてお馴染みの姜尚中さんの講演会を開催しました。ご来場できなかった方々のために、その時の様子と内容を簡単にご報告したいと思います。(以下、講演会のレポート)

姜尚中さんの講演会初日には、300名を超える方にご来場いただきました。遠くは鹿児島から、また教会の前を何十年も通りながら初めて訪れた方、キリスト教とは違う信仰をお持ちの方(そうです。荒生田塾は教会の運営ですが、参加者の信仰を問いません)、お身体の不自由な方、様々な方が足を運んでくださり、本当に感謝でした。礼拝堂だけでは収容し切れないため、後方の扉を全開して軒の下、更にはホールまで会場を拡張しましたが、それでも立ち見が出るほどの盛況ぶり。文字通り「軒の教会」として開演することができました。

ご挨拶のために、控え室の扉を開けた瞬間、ダークスーツを着た姜先生が一瞬にして立ち上がり、戸惑う私に素敵な笑みで長い手を差し伸べてくれました。「ダンディー」という言葉以外、この立ち居振る舞いの表現はない。42歳男性の私(塾長)が一瞬だけ乙女になりました。笑

さて、肝心の講演会の内容ですが、姜さんは冒頭「『人は何のために生きるのか』を問うような人間は病気だ」と、心理学者フロイトの言葉で会場を笑わせました。しかし、姜さんは続けて、これに同意できないほどこの世の中には“不平等”が蔓延し、生きる意味を問いたくなる時代にある。100年前に夏目漱石が小説『それから』の巻末で描いた“敗亡”の時代(文明が進歩し大通りを闊歩する人間の影で、路地裏にはどんどん貧しなっていく人間が溜まっていく)が進んでいると言います。「このような希望の見えない時代の犠牲者は決まって若者達であり、『若者は、何も信じる事が出来ない時代だからこそ、何でも極端なものも信じてしまう』。そして、これこそが社会を恐怖に落とされるような“原理主義”の原点である」と語りました。冒頭に「今から悪を語る」と話はじめた姜尚中さんの時代批判は痛烈でした。

しかし、ここで姜さんは、「悪の反対は何か?それは『善』ではない『愛』だ」と問いかけます。「この時代は『悪のリアリティ』に溢れていて愛の実感がない時代である。それでも『愛』をもってしか、この時代に生きる意味を見出せないのではないか!『イエスは、家族の愛に安住することを否定し、見ず知らずの他者に愛を注げるか』を説いた。子供が親に甘え、親が子供を愛するのは動物でもできる。家族を愛し、地域を愛し、国家を愛するが、他者や異国を排除する社会になっている。人は、“人と人之間”でしか生きていけない。その人と人の“いのち”が繋がっていると思えば、たとえ、自分の人生は儂くとも、人生の意味として、次の世代に“愛を繋ぐ、命を繋ぐ”という生き方があるのではないか」。最後は、悪が霧散するように愛を語ってくれた姜尚中さんでした。講演会の全容は、是非、実際の姜尚中さんの講演録音声を聴いてください!!「東八幡キリスト教会のホームページ」に講演録(2月28日、3月1日)を公開しています。



東八幡キリスト教会では、毎週子どもたちが集まる「教会学校」を開催している。子どもたちに「あなた達は神様が愛されている大切な子どもたちだよ」ということと「だから、誰かを愛する人になろうね」ということを分かち合う場となっている。

子どもたちの現実には厳しい。新学期が始まる度に子どもの「自死」のニュースが飛び込んでくる。教会学校は、生きるための学校である。共に生き、他者を生かす。それが、教会の学校の目的である。

教会学校幼小科では、毎年春に長崎、広島、沖縄と順々に訪ねている。「平和の旅」と名付けられたこの旅は、今回の旅で四周期目に入る。すでに十数年が経過し、最初の旅に参加した小学生は、今大学四年生になっている。

今回の長崎平和の旅の現地ガイド役を引き受けて下さったのは、昨年の平和式典において被爆者代表としてスピーチされた城臺美彌子（じょうたいみやこ）さんだった。式典で原稿になかった「集団的自衛権の行使容認は日本国憲法を踏み越えた暴挙」との言葉を安倍首相にぶつけた方である。

旅は、爆心地公園から始まった。公園の一角に「当時の地層」が展示されている場所がある。瓦や食器、焼けたガラスなど、当時の「日常」の断片が残る。市民の強い希望で公園の一角に水場を創ることとなり、この遺構が見つかった。原爆投下直後、人々は水を求めた。それで、長崎も広島も平和公園には水場がある。水場造成の際、公園の一角から成人女性の骨と乳歯を伴った頭蓋骨が見つかった。傍らには炭状のそば殻も。寝ていた母子が一瞬にして亡くなった様子が伺い知れた。胸が痛む。

城臺さんが「平和とは、なんですか」と尋ねられた場面。子どもたちは「戦争がないこと」と答えていた。城臺さんは「さっきパン屋さんの前を通った時おいしい匂いがしました。私はあれが平和の匂いだと思います。日常生活がそのまま続けられることが平和です」と仰った。戦争になると日常生活が出来なくなる。自由に食えることも、学ぶことも、語ることも戦争は奪っていく。当然おいしいパンも。それが戦争だ。かねてから貧困と格差が戦争につながると考えてきたが、考えてみるとすでに戦争は始まっているのだ。すでに貧困が日常を奪っているからだ。

では日常とは何か。それは「普遍性のある事柄」だ。すなわち「私の日常」は、同時に「彼の日常」であり、「あなたの日常」でもある、ということ。寝て、起きて、食べたいものを食べて自由に学ぶ。すべての人は、この何気ない日常に生きている。そして、それが続くことを望んでいる。それが大事なのだ。

「長崎の鐘」等有名な永井博士は、原爆投下後「如己（にょこ）堂」と言う一畳ほどの小さな家に子どもたちと共に身を寄せた。「如己」とは「己（おのれ）の如く隣人を愛せよ（如己愛人）」というマルコ福音書一章のイエスのことばから取られた。

イエスは、自己と隣人は別ものではなく繋がっていると説いた。ここにも普遍性がある。「愛されたいと思っている自分と同じく隣人もそう思っている。だから互いに愛せよ」。あるいは「自分が嫌だと思ったり隣人もそう思っている。だから互いに愛せよ」。愛することと隣人を愛するということは一つの事柄であり、普遍性を持つ。

しかし、この普遍性を断ち切ることによって戦争は可能になる。隣人の上に核兵器を落とせるのは、自分と隣人が分断された結果である。先日ロシアのプーチン大統領は、クリミア「編入」の際、核兵器使用を検討したと発言した。自分と他人という普遍性を失った大統領が核のボタンに手をかける。

すべての人間はつながっている。「日常」という普遍性を持っている。あの地層に七〇年前の「日常」を見た。だから胸が痛んだ。あの母は、僕と同じ普遍性、すなわち日常を生きていたからだ。そして、本当は親子で何気ない日常を送りたかったのだ。だから、七〇年後、同じ日常を生きていく僕の胸が痛んだのだ。日常は時を超えて私と隣人を繋ぐ。

今、日常が壊されようとしている。ヘイトスピーチは、日常の普遍性を見失った庶民の姿だ。戦争が近づいている。日常を今一度確認することで打ち返そうと思う。

寅さんは言う。「お互い貧乏人同士じゃねえか。もう少したわわり合ったらどうだ」。そっだ、僕は大統領ではない。お互いの日常を生きていく庶民に過ぎない。きつと、わかり合えると信じる。

今後の行事予定

第二回 荒生田塾コンサート

～かかわらなければ～

さわともえ 沢 知恵ピアノ弾き語りコンサート

10月24日(土)



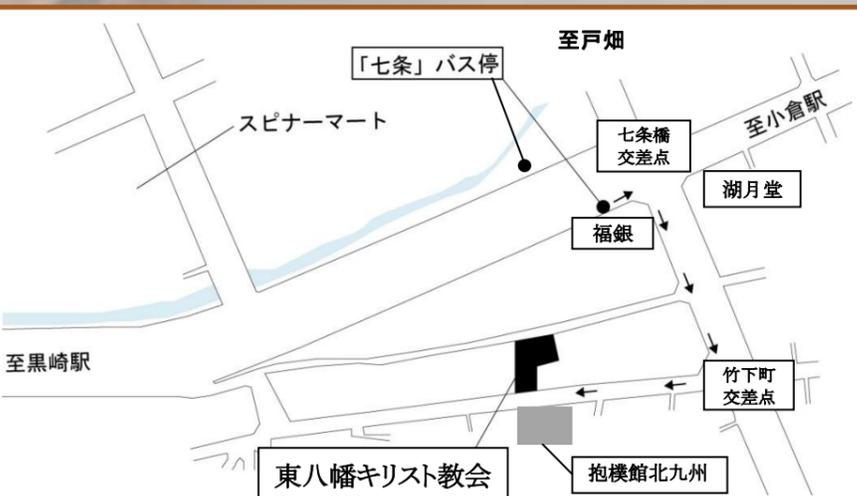
沢 知恵（うたとピアノ）
1971年生まれ。日本、韓国、アメリカで育ち、3歳からピアノを弾く。
東京芸術大学楽理科在学中に歌手デビュー。
〈谷川俊太郎をうたう〉など26枚のアルバムを発表。
第40回日本レコード大賞アジア音楽賞受賞。
「日本語をもっと美しくうたう歌手」と評され、圧倒的迫力のパフォーマンスで、老若男女に支持されている。

東京での季節公演をはじめ、ハンセン病療養所、災害被災地、少年院などでも活動。おもなテレビ出演「ハートネットTV」「徹子の部屋」「題名のない音楽会」など。日本キリスト教団 岡山教会員。

【おもな曲目】

アメイジング・グレイス／こころ／満月の夕／胸の泉に（かかわらなければ）／故郷 他 ※当日変更の可能性あり

～詳細は次号をお楽しみに！～



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40

電話/FAX (093) 651-6669

Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com

牧師: 奥田 知志 石橋 誠一

協働牧師: 藤田 英彦 森松 長生

バザー報告

昨年の11月24日(月・祝)に、教会堂建築のために一年間お休みをしていた教会バザーが二年ぶりに開催され、開始前から行列ができるほどの盛況ぶりでした。

バザーの収益から以下の諸団体に献金をお送りしました。献品のご協力をいただいた方、お客さんとしてたくさん買い物をして下さった皆さん、本当にありがとうございました。

- 1 東日本大震災被災者・福島原発被害者のために⇒共生地域創造財団へ
- 2 アフガンでの医療活動のために⇒ペシャワール会へ
- 3 アジアの農業研修生支援のために⇒PHD協会へ
- 4 ホームレス自立支援のために⇒NPO 法人 抱樸（旧北九州ホームレス支援機構）へ
- 5 「障害」者施設のために⇒久山療育園へ、太陽パンへ
- 6 海外の医療活動のために⇒キリスト教海外医療協力会へ
- 7 ルワンダの平和と和解のために⇒佐々木和之さんを支援する会へ

今年も11月23日に行います。皆様のお越しをお待ちしています！



定例集会

- ・主日礼拝(一般の部) 毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部) 毎週日曜日午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会) 毎週日曜日礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
 - 夜の部 毎週水曜日午後7時30分
 - 昼の部 毎月第3水曜日午後1時

牧師へのご相談 随時受付中!

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう！牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話 093-651-6669